



RESA  
REAL ESTATE STRATEGY ASSOCIATION

一般社団法人 不動産総合戦略協会 RESAレポート 2018年9月号

## ～ 海外のサイエンスパーク ～

〒104-0061 東京都中央区銀座1-13-1 TEL:03-3561-0200 HP: <http://www.resanet.or.jp>

### ■都市政策・産業政策における研究開発機能の高次化

産業競争力の源泉は、「人材」とそれに付随する「技術」であることに基づいて、これまでに地域振興・産業振興策として多様な政策が打たれてきました。1980年代以降でも、高度技術工業集積地域開発促進法（テクノポリス法・1983年）、地域産業の高度化に寄与する特定事業の集積の促進に関する法律（頭脳立地法・1998年）、地方拠点都市地域の整備及び産業業務施設の再配置の促進に関する法律（地方拠点法・1992年）が法制化され、続いて、1997年に地域産業集積活性化法（2007年企業立地促進法）、1999年に新事業促進法（2005年新事業活動促進法）等により「産業クラスターの創出」等が展開されました。この過程で1986年の民活法制定を背景に打ち出された「リサーチコア構想」において「神奈川サイエンスパーク」（KSP）等が認定されました。近年では、大都市圏も含めて国家戦略特区が指定され、国際競争力を高めるプロジェクト（例えば、羽田空港近接エリアでの「キングスカイフロント構想」等）が提案されています。

全国各地でこのような趣旨で200件以上が「サイエンスシティ・サイエンスパーク・リサーチパーク・テクノポール」等<sup>\*1</sup>と呼ばれているエリアが創られました。国際的に知られている公的研究機関集積のつくば研究学園都市、民間研究機関を中心にした関西文化学術研究都市、京都リサーチパーク、湘南国際村等、多様な立地施設、規模、形態等が見られます。その多くは国内の研究機関や関連施設等を誘致しており、一定の成果を挙げています。しかし、研究開発能力をさらに高めるためにも海外からの高次な研究機関や企業・人材を誘致することが相互に有益です。国も海外へのアピールを喚起していますが、これまでは海外に向けての誘致活動はほとんど行っていません。

一方海外でも多くの類似施設は多くあり、世界レベルで誘致合戦をしています。そのための多様な情報発信やサービス提供をおこなっている国際組織が「国際サイエンスパーク協会」です。

\*1：必ずしも統一的な明確な定義はありませんが、ここでは官民の研究開発機関や大学が立地し、高度な産業・研究機能集積を目的としたエリアをサイエンスパークと総称します。

### ■国際サイエンスパーク協会（ISPA）

世界各地に存在するサイエンスシティ・サイエンスパークを繋ぐネットワークの国際組織であるISPA（International Association of Science Parks and Areas of Innovation）は1984年に創設されました（2018年時点で76カ国、373地区の運営組織が加盟。国内では京都リサーチパークが加盟）。本部はマラガ（スペイン）のマラガサイエンスパークの一角のオフィスにあります。



2016年大会（マラガ）

毎年、世界の加盟都市のひとつで大会が開催され、加盟組織の表彰や多様な議論がされています。優良な研究組織や企業を世界中から誘致する目的からは加盟組織はお互いにライバルですが、他のエリアと差別化するためのサイエンスパークの一層の認知度の向上や相互に勉強し合う面からは連携しています。この世界的な協働的な取組みが誘致に有効ですので、我が国も多くの組織が加盟してさらなる展開を図るべきだと思います。

世界には多くの多様なサイエンスパークがありますが、ISPA加盟の中から、実際に訪問して、ヒアリングをした、いくつか事例を紹介したいと思います。紙面の制約から訪問組織の一部の概要をまとめました。他の事例や詳細については改めて、後日、本レポートで取り上げたいと思います。

## ■海外のサイエンスパーク

多様な形態があります。オランダのフードバレーはワーヘニング大学等を核にフードバレー協会が世界から食品関連の企業を誘致するためのプラットフォームを運営しています。施設は分散立地し、地域を限定していません。シンガポールのサイエンスパークは政府が主導し、アジアのR&Dの中心を目指して、アセンダス（政府系デベ）が開発運営しています。シンガポール国立大学等が中心となっていますが、研究者同士の交流等に力を入れており、他のどのエリアもマネジメント組織による運営が重要な役割を果たしています。



サイバージャヤ

シンガポールサイエンスパーク

名称	コンセプト・テーマ等	設立年 管理・運営者
アンダルシア・テクノロジーパーク) 【スペイン】	マラガ大学・PTA 内外のマラガ地域企業・行政との密接な連携により、「マラガバレー」を形成。大規模で持続的な産学連携研究開発拠点の確立を目指す。	1999 年 アンダルシア・テクノロジーパーク
ワロン地域サイエンスパーク 連盟 【ベルギー】	・ワロン地域における複数の更なる発展と、イノベーションのプロセスにパーク連合として深くかかわりそれらの促進を目指す	2002 年 SPoW – Science Parks of Wallonia (運営会社は各パークにより異なる。)
マンチェスター・サイエンスパーク 【イギリス】	サイエンスパークを含むマンチェスター・コリドーを形成。地域内機関と行政の連携体制が確立されており、マンチェスター地域全体の経済発展を目指す。	1984 年 マンチェスター・サイエンスパーク社
フードバレー 【オランダ】	産学官連携(公的機関、民間企業、大学)による連携体制「ゴールデントライアングル」を確立。	2004 年 フードバレー協会
シンガポールサイエンスパーク 【シンガポール】	シンガポールの産業政策の一環としてアジアの R&D の中心を目指す。	1980 年 アセンダス(関連会社含む)
新竹サイエンスパーク 【台湾】	工業エリア、居住エリア、レジャーエリアに分かれ開発。研究者の集積を目指す。	1980 年 科学工業園区管理局
サイバージャヤ 【マレーシア】	2020年に先進国入りを目指し、ICT、バイオテクノロジー産業を中心とする知識集約産業育成を目指す。	1997 年 サイバービュー

出所:平成25年度サイエンスシティの取組に関する効果的な海外情報発信方策のあり方に関する調査検討業務報告書(平成 26 年 3 月国土交通省 都市局 都市政策課)

一般社団法人 不動産総合戦略協会  
理事長 村林正次